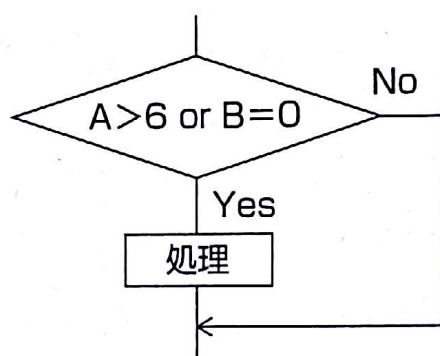


概要

名称	
命令網羅	すべての命令を少なくとも、1回以上実行するようにする
分岐網羅 (判定条件網羅)	すべての判定条件文において、結果が真になる場合と偽になる場合の両方がテストされるようにする
条件網羅	すべての判定条件文を構成する各条件式が、真になる場合と偽になる場合の両方がテストされるようにする(分岐は考慮しない)
複数条件網羅	すべての判定条件中にある個々の条件式の起こり得る真と偽の組合せと、それに伴う判定条件を網羅するようにする

例として、次のような場合のテストケースを考えてみましょう。



		A > 6	
		A > 6 (真)	A ≤ 6 (偽)
B = 0	B = 0 (真)	①真	②真
	B ≠ 0 (偽)	③真	④偽

それぞれ、以下のようなテストケースを使用することになります。

命令網羅	すべての命令を1回以上 ⇒真となる①②③のいずれか(偽の処理はない)
分岐網羅 (判定条件網羅)	結果が真になる場合と偽になる場合 ⇒真となる①②③のいずれかと、偽となる④
条件網羅	各条件式が真になる場合と偽になる場合 ①(真, 真), ②(偽, 真), ③(真, 偽), ④(偽, 偽) ⇒①と④, または, ②と③のいずれか
複数条件網羅	個々の条件の起こりうる真と偽の組合せ ⇒①②③④のすべて

左がA > 6
右がB = 0

● ブラックボックステスト

ブラックボックステストは、モジュールの内部構造を考慮することなく、仕様書どおりに機能するかどうかをテストします。プログラマが設計者の意図した機能を実現しているかどうかのテストであり、主にプログラム開発者以外の第三者が実施します。ソフトウェアユニットテストを始め、各テスト工程で行います。

“くれば”で覚える  !

ブラックボックステスト とくれば 外部仕様に着目する

テストデータ作成方法に、限界値分析と同値分割があります。